

長浜改革会議（第2回長浜市総合計画審議会）要点録

1 日 時 令和7年9月26日（金）13：45～16：20

2 開催場所 3階 特別会議室

3 出席者 ○委員

岩寄会長、林誠副会長、磯崎委員、清水委員、瀧澤委員、立花委員、
田中委員、田邊委員、中川委員、林智子委員、細川委員、松井委員、
水上委員、吉田委員

○市出席者

浅見市長、未来創造部 和田本部長、野村次長
政策デザイン課 手崎課長、岸田課長代理、山崎係長、五十嵐主査

4 傍聴者 1名

5 次 第

（1）開会

- ・定数の確認
- ・配布資料の確認

（2）市長あいさつ

- ・諮問の1点目に「長浜市の未来図」を基本的なコンセプトとして、将来の「長浜市がめざすまちの姿」について、ご意見、ご提案を求めている。このあと、時間を頂戴して「長浜市の未来図」について、私から説明するので、活発な議論や新たな提案をお願いする。
- ・また、今日までの間、人口減少・少子高齢化においても持続的なまちづくりを進めることができるよう、市のめざすべき将来像について、幅広い世代の市民の方、とりわけ次代を担う子どもや若者を中心に1,400人を超える方々から様々な意見をお聴きしてきた。
- ・これらの意見を踏まえながら、市の若手職員によるワーキンググループでの議論などを経て、「将来の長浜市は、こんなまちにしたい」について、めざす姿を表現するキーワードを洗い出した。グループワークのなかで、委員の皆さんからも「将来の長浜市は、こんなまちにしたい」という思いを提案いただきたい。
- ・そのほか、今回の会議においては、各種計画の進捗の報告や次期の過疎地域持続的発展計画についての意見など、盛りだくさんの内容となっている。限られた時間の中、委員の皆さんには、忌憚のない意見と慎重なる審議をいただきたい。

(3) 議 事

①長浜市の未来図について

総合計画基本構想の策定について（進捗）

総合計画基本構想（骨子案）について

【意見・質疑等】

（委員）

- ・ 様々なワークショップを実施し、様々な意見が出ているのはよく分かった。大変良い取組である。ただ、我々審議会の役割を考えると、この様々なワークショップと同じような形で同じレベルで議論してしまうのは、審議会としての役割が果たせないを考える。ここに出てきているような様々な意見を、この審議会としてどう捉えて、どうこれからの構想に活かしていくか、あるいは審議会の委員として、それぞれにどういうことを考えていくべきか、という点をしっかり意見として戦わせないと審議会としての役割が果たせないのではないかと思うので、今後の運営にも活かしていただきたい。

（事務局）

- ・ 今はいろいろなアイデア募集をしているところで、本日もこの後ワークショップをさせていただくが、先ほどのスケジュールで申しあげたとおり、年末、年度末に向けて、まず、素案という形でまとめていくという作業に、いずれは入っていこうかと考えている。現段階では、拡散をしているような状態で、これをどこから集約に切り替えていくか。このタイミングは非常に大事かと思っている。我々としては、延べ1,400人余りの方々の意見を頂戴しているところだが、この1,400の意見に、さらに他の角度はないかというところを今追求させていただいた上で、年末、年度末に向けて、集約を図っていきたい。その際には、委員ご指摘のように、この15名の審議会の皆さんの知恵、知見をお借りし、この中で長浜市として、将来にわたって大切にしていけるべきものは何かを見出していただければと考えているので、よろしくお願いします。

（委員）

- ・ せっかく審議会の委員として来ていただいているので、委員として、それぞれの観点からしっかり意見を申しあげることは非常に大事なことである。委員の皆さんもそれを望んでおられると思うので、よろしくお願いします。

（委員）

- ・ 質問であるが、同じようにヒアリングしたりワークショップしたりということは定期的にこれまでも実施してこられたと思うが、今回違ったところはどういったところがあるか。

（事務局）

- ・ 各個別計画においてもいろんな意見を伺っているのはこれまでから実施している。今回については、まず将来というところをテーマに置いている。今から14年後を目標とし

た次期の基本構想を考えていくところで、なるべく若い方々の意見を中心に聞かせていただき、それぞれの方々が生産年齢人口になっていく過程で、こういった長浜をめざしていきたい、望んでおられるかを中心に聞いてきたところである。第1回審議会でも申しあげたとおり、長浜で一番大きな課題は人口減少であり、特に若年層の流出が著しいという状況は、ここ数年変わっていない状態である。それに対し我々も毎年度、人口減少を食い止めるための対策をそれぞれの部門で考えているが、今のところ目に見えた形で人口流出は止まっていない。やはり1年2年先の話だけでなく、10年後、20年後まで、人口維持、あるいは人口減少を食い止めるためにこういった対策が必要か、中長期の視点に立った、意見を伺いたいと考えて、今回意見募集を行った。

(委員)

- ・資料1－2の9ページの、長浜改革会議、施策議論する附属機関等の一覧があり、各部門の専門家の皆さんが議論をされていると思う。まず1つ目が、この中で足りない部門がたくさんあると思う。例えばスポーツ、文化、農林水産、子育て、医療、デジタルなどの分野の審議会や委員会、懇話会の方と話す機会は今後検討されているのか。また2つ目として、こうした専門家の方々が深く議論されていると思うが、その方々の議論された会議録や、より細かい具体的な話の文章等は今後出てくることがあるのか。というのも、後半にあるワークショップのワードは、すごく抽象的な話ばかりなので、この専門分野、審議会で議論する中では、専門的なところを深めていく専門家がいるので、その中でも議論を高めていって、それを更に具体的なところから抽象化していくなら分かるが、非常に今、抽象度の高い話ばかりが出ているので、ここから何をワードにしているかというのは、少し方向が逆なのではないかと感じている。

(事務局)

- ・ご指摘のとおり、本市の附属機関の数は100近くある。本来であれば、全ての附属機関から意見をいただけると良いが、時間的な制約もあることから、各部門を代表する附属機関を9つ選出し意見を伺いたいと考えている。これ以外の附属機関の意見を全くシャットアウトするという意味ではないが、まずこの9つの附属機関から意見を伺いたいと考えており、今それぞれの附属機関から意見聴取をしているところである。
- ・また、それぞれの附属機関が審議する所掌事務がある中で、附属機関の中の協議についても、時間をいただいて意見聴取をしているところである。長浜市の未来図について説明した中で、委員の皆さんから後日、個別に意見をいただく形式をとらせていただいているのが実情である。一方で、ワークショップを実施する場合は、その場で意見を伺うことができる。
- ・委員の意見のような具体的な内容から積み上げていくという方法もあるが、今のところ、個別の議論に割く時間が取れていないことが実情である。なるべく多くの意見が取れればと思っているが、先ほど説明したワードの中で、前に貼らせていただいているポスターや、各個別のワークショップで集まった意見については、具体的にいただいている。

いただいた意見は電子記録として管理させていただいている。総合計画基本構想の素案をまとめていく過程で、各附属機関においてピックアップできるような意見等があれば、個別に情報提供させていただきたい。

(委員)

- ・せめて本審議会委員の専門分野だけでも、審議会内で意見をいただけると嬉しい。

【グループワーク】

- ・事務局よりグループワークについて説明
- ・3グループに分かれてグループワークの実施
- ・グループごとの発表

(Aグループ)

- ・1人ひとりが活躍できる。自慢したくなるまち。他のまちへ行ったり来たり、開かれた、という意味でできるまち。自然が数多くキーワードにもなっていて、自然が整備されているまち。安心・安全であるまち。それから共生社会が実現しているまち。パラスポーツを知る、体験する場所がある。多様性が担保されているまち。
- ・その他、憧れも本音も両方持てるまち。頑張ることもできるし、しんどいことも言うことができるまち。デジタル的な教育とフィジカルな教育のバランスがとれたまち。少しデジタルがありすぎて心配な声もあった。

(Bグループ)

- ・Bグループでは幅の広い意見が出て、もうこれで計画ができると思うくらい網羅されているので、まとめるってことはすごく難しかった。
- ・市外の人から見て、住んでみたいと思えるかどうか、定住し続けられる地域になって、なり続けるためのデザインが図られているか、また、ここにいる人の視点での思いがいくつか出た。
- ・こども若者の笑顔や、ここに住むことを投資したけれども、住み続けることで投資分をしっかりと回収できるのか、徒歩圏で衣食住があるか、身近に遊べる場所があるか、その人の思いを重視した発言がたくさんあった。長浜市にいろんなものがあるが、守りたいという意見であった。
- ・もう1つは、ないものを作っていきたい、減っているものを増やしていきたいという意見で、未来への願いを思うが、若者の夢を実現するとか、生涯学べる地域であるとか、無くなってしまったものを復活するとかを願うような声もあった。どうしても人口が減少すると求心性が低下してしまう部分があるので、その時代、その土地の魅力、求心性をどのように増やしていくのか、作っていくのか、10年ごとのイメージづくりみたいなこともいると考える。人の思いだけではなく、未来への願いを込められたような意見があった。その中で何を残していくのか、そして何をつくっていくのか、今後の未来に向けた計画づくりを行う中で、昨日さっきみたいな話し合いではなく、今後10年間これが続けたら次の総合計画をアップデートできたり、すごくパラダイムシフトが

起きたりするのではないかと思いますので、未来の願いを考えて何を残すか、何をつくるかをこれからずっと話し続けるような長浜市になると良い。

(Cグループ)

- ・子どもたちの居場所や、市内各地に居場所があることがすごくあいがたいという意見や、深夜になっても暮らしやすいまち、多世代が集まる場所があることがすごく暮らしやすいまちになるという意見があった。
- ・また、車が多いから子どもたちの声を町中で聞かなくなったという話もあった。あと、やりたいことができる。就職しても離れてもまた戻って来られて、就職先であったり、働く場所があったり、映画館、ショッピングモール、ドライビングシアター等があると嬉しいなという意見も出た。
- ・その他、環境や自然、自然エネルギー、こういった自然の部分にこだわって、まちを盛り上げたら良いという意見が出た。

②第3期長浜市定住自立圏共生ビジョンの事業進捗及び変更について

③長浜市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る令和6年度事業について

④長浜市過疎地域持続的発展計画に係る令和6年度事業について

⑤長浜市過疎地域持続的発展計画の変更について

【意見・質疑等】

(委員)

- ・先ほどの未来の計画では、こども若者を中心に進めていくとのことであるが、文化事業の中でも、こども若者で構成するユース会議という団体があり、学校派遣のアウトリーチ等を行っている。若手育成の部分もかなり担っており、若手が学校で子どもたちに演劇や音楽を届けることによって、将来やってみたいと思う子どもたちに支援している形になると思っている。資料2-2の文化の最後の部分では、毎年度、予算が非常に減っている。予算削減されているところが当然あると思うが、こども若者分野に関しては継続していけるように、予算措置をお願いしたい。
- ・資料3-2のデジタル田園都市国家構想の中で、後ろから3ページ目の「こども・若者の意見発信及び反映する体制の推進」について、基準値が62、目標値が65である一方、実績が84と非常に高いが、目標値がそのまま変わらない。アウトリーチの要望は非常に高いが、予算がないために断ることが多々あって、半分ほどの小学校を回る程度に留まっている。非常に実績値が高い一方で目標数値が低い。今後もまだまだ幅広くアウトリーチ事業、学校に文化芸術を届けることはできると思うが、予算面で断らなければならない状況に陥っていることが非常に残念である。
- ・資料3-2では、令和10年度の目標値が、既に令和6年度で上回っている指標が結構多く見受けられたので、目標値の見直しを行い、実情にあった目標を立てていただきたい。また、今後も実績値が伸びる場合は、予算や人も実績に応じた形で組み立てていただける方がモチベーションも上がる。こんなに頑張っているのに予算だけ減ることは

非常にモチベーションが下がる。特に我々文化を推進する者として一番大事なことは、届ける、作っていくというモチベーションであるので、応援いただけるような予算措置をお願いしたい。

- ・資料４の文化では、文化ホール運営事業について、市内には５つの文化ホールがあるが、その中でも長浜文化芸術会館は築５０年を経過しており、そろそろ新しい文化ホールの話を進めていかないといけないと思っているが、未だにそういった話が出てこない。次の総合計画では、文化ホールを今後どのようにしていくのかの話題がでると思うが、文化の方で全然話が行われていない。実際に使われている方々が文化ホールを動かしてより使いやすい形にしていきたいと願っており、早く次の議論を進めたい。文化ホールの整備となると５年１０年は当たり前にかかる話である。つまり長浜文化芸術会館は６０年経ってしまうことになるので、ほとんど使えなくなってしまう。文化ホールの今後のあり方について議論を早く進めていただきたい。

（委員）

- ・まち・ひと・しごと創生総合戦略について、計画期間が令和１０年度までであることと、総合計画を補完し具体化する事業として非常に重要な計画である。その中で、基本目標②長浜に人を呼び込む「活躍の場創出」を掲げられていることは重要なポイントだと思う。一方で具体的なＫＧＩとしては観光入込客数を用いているが、もう少し幅広に、長浜に人を呼び込む「活躍の場創出」ということを捉えられて、令和８年度以降の事業計画をされても良いのかなと思う。
- ・６月に公表された経済財政諮問会議の骨太の方針においても二地域居住の推進を具体的に掲げられている。二地域居住の面では国も支援していくかと思う。また、新たな関係人口の枠組みが生まれつつある。資料５の過疎地域持続的発展計画の変更の中に「高校生長浜留学応援事業」があったが、地域みらい留学は文部科学省の制度で、伊香高校や虎姫高校が想定されていると思うが、実際、滋賀県において地域みらい留学を採用しているのは、信楽高校しかなくて、滋賀県は非常に弱い分野であると思う。長浜市において特色がある、伊香高校、虎姫高校の教育が出始めているので、そういった取組への支援を市としてすることは、長浜に人を呼び込む「活躍の場創出」の少し幅広の捉え方に繋がっていくのではないかと感じた。

（委員）

- ・人口減少が今後さらに進む中、現行の過疎地域持続的発展計画では、長期的展望として２０６０年に人口規模を８８,０００人の維持及び人口構造の若返りをめざすとなっている。人口構造の若返りというと、外から呼び込むことや出生率を上げるところで、本当に長浜市で子育てできる環境や制度をしっかりと整えていくことが必要である。
- ・先ほどのグループワークの中で、外の方との繋がりや交流があったら良いという話題も出ていたので、高校生が外部の方と連携するような取組や出産の環境を整える等、この先、子育てしやすい環境をしっかりと見せていくことが重要だと思う。

（委員）

- ・過疎地域では、働くところが少ないと感じており、もっと働く場をつくることに対する補助支援をしっかりと打ち出して事業者や市民の皆さんに言えると良い。
- ・人口減少の規模はどういう試算をされたのか。5年でまた15,000人ぐらい減ることになるので、人口減少をどう止めていくのかを分かりやすく説明していただきたい。

(委員)

- ・仕事があって初めて、暮らしがあって、まちができていくみたいな認識が強い。繊維産業から大手メーカーの協力会社に移り変わっていったこのまちが、この先どうなっていくのかというところが非常に興味深い。仕事があることが最も大切ではないかと私も大変共感している。今後どのような産業を長浜市で生み出していくのか。今の製造業なのか、また観光業なのか。それともまた違う施策があるのか。観光という視点から言うと、長浜市は非常に恵まれている。市外から見ると、長浜市には多くの資源がある。これを活用してどんな仕事を生み出すのか、皆さんと一緒に考えながら、子どもたちが笑顔で過ごせるようなまちづくりになれば良いと思う。

(委員)

- ・資料5-1について、人口が減少する中でどうしていくと良いか難しいと思う。今は定住自立圏共生ビジョンの中で生活機能の強化における福祉等の結びつきとなる事業や集落支援員事業を実施されている中、そちらに目を向けていられる余裕があるうちに、「村おさめ」とかを視野に入れた、プランBのような、もうどうしようもない場合に考えるようなことを議題として、特に私たち40～50歳代が一生懸命考えて、プランBも選択肢の一つとして、発展もするが、どうしようもない場合に、おさまっていく方法もあると思う。今は頑張り続けられないといけないと言えない状況なので、頑張りすぎなくてもこういう道も選択としてあるということを子どもたちに示してあげたいと思う。

(委員)

- ・不登校の子どもたちの居場所やフリースクールを運営しているので、7つの輝きの中で一番に目についたのは、「こども若者」で、子どもたちが主役にという言葉である。子どもたちが主役になっているが、実際に子どもたちと関わって、子どもたちの意見がどれぐらい本計画の中に組み込まれているか、なかなか難しい部分もあるが、もっと子どもたちの声が生きてくるように、私も発信を続けたいと思う。
- ・定住自立圏共生ビジョンや過疎地域持続的発展計画は、とても関わりのある計画だと思う。来年度から多様な学校が開校するが、もっと子どもたちの学びの場や教育の分野に支援がいろんな意味で膨らむと良いと思う。ひいては、そういう長浜ですずっと暮らしたいとか、移住してきたいとかとの思いに繋がるのではないかと。フリースクールも保護者への助成金は始まったが、条件が非常に厳しく、対象者がほぼいないという状況で、予算があっても活用できず、とてももったいない。もう少し対象者を広げた方が良くと常に長浜市に訴えている状況である。
- ・現在、空き家を利用して、フリースクールや多世代の交流の場を運営している。空き家への移住や再利用は年々増えていると思うので、安心して活動したり、暮らしたりする

ためには、もっと医療や心のケアを安心して使えないと継続していくことが難しい。本取組に対して予算と人手を確保し、みんなで作っていければ良いと思う。

(委員)

- ・大きな流れとしては、市が縮小していく方向にならざるを得ない中で、いろいろな事業に取り組まれ、たくさんの努力をされていることは理解したが、資源が減っていくことは、要するに取捨選択をしていかざるを得ないという状況が生じていることだと思う。気になった点は、議論の中で、いろんな取組を実施して一定の成果があったということ、次を考えるとという話があるが、大胆にやるところは重点的に、やらないところはカットすることをせざるを得ない時代になっていると思う。いくつかの報告、出発の点と、その目標値を示していただいたが、現状がどのくらいでその効果が定量的にどのくらい効果が上がっているのかが少し分からない。「一定」というのは何を持って「一定」なのかということを示すことを数値として示されていない気がした。全部を数値で示すことは難しいと思うが、特に取捨選択して辞めるものを決めていくという意味では、定量的に判断する必要があると感じた。
- ・もう1つは、いくつかの事業は、長浜市役所以外の外部組織とやり取りして進めていかざるを得ないものもあるが、市としての資源が減っていく中で、外部の方々と一緒に効率的に実施していくという観点からすると、市と外部の団体が、Win—Winになる、かつ、対象者に対してできる限りの支援をするという体制を作る必要があると思うので、そういう意味では、長浜市が実施するという感覚ではなくて、外部の団体とコミュニケーションを取って両方がWin—Winになるように話し合いの場を持つべきではないかと思う。既に話し合いを実施しているかもしれないが、そういうところが見えてこない。また、実質の運営をもう少し評価の観点に入れて、利用者に対して、有効な施策を考えていただきたい。

(委員)

- ・まず、長浜市の未来図のところで1つコメントする。今の課題は、人口減少が止まらないところでスタートがあると思うが、それに対して、未来ではこういうことをしたいという、「ウィッシュ」をいろんな方々から集められた。しかし、仮に人口減少が止まらない場合どうなっていくのかという現実、あまり分かっているようで分かっていないのではないかと感じる。おそらく行政は、日々、予算や実務を通じて、こういう厳しい現実が待っているのではないかと思われていることがあると思うが、そういったことを全部示すとまちの魅力が下がるのではないかというデメリットもあるかもしれない。ある程度そういう現実も市民の皆さんに伝えながら、その「ウィッシュ」とのギャップをどう埋めていくかを考えていけると、まさに「開かれたシビックプライド」で自分たちのまちを本当にどうやって未来に繋げていくかという「ウィッシュ」だけではない本当に責任ある行動に繋がっていくのではないかと思う。
- ・2点目は、過疎地域自立的発展計画で過疎地域と言った時に、定住自立圏共生ビジョンにおける周辺地域と呼ばれるエリアがその対象になっているかと思うが、そこには人口

減少という極めて現実的な課題があるのと同時に、そこには広大な山林があったり、農業に使われていたり使われなかったりあると思う。例えば、山林が約37,000ha、農地が約8,000haもあることは、他にない資源ポテンシャルではないかという目も向けられるので、それをどう生かすかという観点、いわゆる稼ぐという観点、仕事を作るという観点等、何かキーワードが入っていくと、そういうキーワードを見た、また市民の方とか市街の方とかがそれを着目して、どうしたら自分たちで稼げるかという発想に繋がっていく可能性もあるのではないかと思う。そこで、私自身が仕事上よく関わっているカーボンニュートラルとか自然エネルギーとかという観点でいくと、例えば田畑で言うと「水田クレジット」でカーボンクレジットを生めば、その環境価値を都会の企業が買ってくれる、そういう時代もそろそろ来るような動きもあるので、そういうキーワードを入れながら具体政策を引き続き検討していくとか、ソーラーシェアリングで田畑の空の空間を売電に使うようにできないか、そういった話も出始めているので、そういうキーワードを盛り込みながら、いかに未利用の資源を仕事の糧にできるかというところが入ってくると良いと思う。

- ・ 3点目は、先ほどからも話に出ているが、「開かれたシビックプライド」の「開かれた」というところで、私は立場上よそ者で、よそ者として長浜に仕事で来させてもらっているが、行政の役割というところで、よそ者とか、よその会社がその地域でそういうことをするのに、ワンクッションとなり、どういうところと合意形成していくのかとか、よそ者も入って行きやすい受け皿みたいなものが整っていくと、まさに「開かれたシビックプライド」で地元の力も、よそ者の力も活かしながら、この人口減少に対して、先細も補っていけるような取組を、官民共同プロジェクトみたいなものをいかにリアルに、1個ずつ作っていけるかが、この10年15年という長い時間で考えるに値することかと思う。最後の点は、行政の役割としてよそ者とのワンクッションを受ける受け皿や、物事を進める時に規制がどうしても立ちはだかるので、ルールメイキングの改善点等を、行政の役割として計画の中に位置づけられると良いと思う。

(委員)

- ・ この議論を何度か聞きながらいつも悩ましいなと思うことは、総合計画とどう関連するのか、まち・ひと・しごと創生総合戦略とどう連動するのかである。過疎地域持続的発展計画と中心市周辺自治体を決めたの定住自立圏共生ビジョンを策定し、そしてまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定するという長浜市がすごいなと改めて思ったので、そういう意味では、長浜改革の全体イメージの中に、まち・ひと・しごと創生総合戦略はどの部分に関わってくるのか、例えば、定住自立圏共生ビジョンで生活のインフラや、人との結びつきの土台的な部分の上に、どんな魅力やどんな求心性を創るためにその土台を大事にするのかっていうその計画性と戦略みたいなものを載せていくことがとても大事なのかと思う。そのためには、データをもっと出していくという作業があるかもしれないし、もう少し質的な分析、数値化されることに中心を置いて生の声やたくさんの人の思いが一つの言葉になっているところを貫く一つのシーンになっていくのかなと思

う。もう少しデータを駆動させる面は駆動させながら質的な分析もしっかり把握して、その事実権をもう少し拡大するのかとか、防災に関してはこうしていくとかも細やかにしながら、5年後10年後に繋がるように単年の事業で終わるのではなく、うまく持っていけるような絵を総合計画で書きたいと思う。

(委員)

- ・まず1点目は、これからの人口減少社会における産業の方向性として、地域の需要を満たす、ローカル型の産業は生活に直結するので、非常に大事な産業だと思うが、人口が減少していくとともに市場も減少していくので、ここに頼ってではなかなか経済の活性化は図れないと考える。そうすると、やはり製造業を中心として、他地域に市場を求めるアウトバウンド型産業と逆に、観光のように、他地域から需要を取り込んでいくインバウンド型の産業に特に活性化させて進行させていくことが地域の付加価値を向上させることに繋がる。そして、得た付加価値をいかに地域で循環させていくかを考えていくことが大事である。雇用は単に人手不足を補うだけではなく、いかに働きやすく働き甲斐のある多様で魅力ある働く場を作っていくかが非常に大事なことと思う。今の企業経営においては一番重要な課題であると思うし、地域にとって、それぞれの人がそれぞれの自分らしさの中で、人生を送って行くうえにおいても非常に大事なことだと思うので、多様で魅力ある働き場を作っていくという視点をぜひ強めて欲しいということが、全体の産業の方向性である。
- ・2点目は全体としての計画の考え方である。今を起点として物事を考えていくフォアキャスト思考はもちろん大事だと思うが、やはり将来像、想定される将来の姿をあらかじめ描いて逆算していくというバックキャストの思考も、もう少しあって良いかと思う。特に第1回審議会でも説明されたが、人口動態については、明確な形で人口が減少していくことが分かっている。今からどういう備えをしていくかという発想は、絶対に必要なことであるので、バックキャスト思考が大事である。
- ・3点目は、エピソード的な話だが、計画の中で「移住」という言葉が出てくる。他地域から長浜市に嫁いで来られて、地域でいろんな活動をされている方と意見交換する機会があり、その方は、「今は移住者に対していろんな支援があるが、私たち他地域から嫁いできた嫁こそが移住者であり、もっと嫁に優しい社会であってほしい」と話されていて、なるほどと思った。先ほどから市長が言っている「開かれたシビックプライド」は極めて重要かと思う。

(委員)

- ・多分皆さんの半分も生きていないこの若者の言える意見としては少し小さいかもしれないが、大学生の視点から言うと、資料2-2と資料4-2の中で、高校生までの支援はたくさんあるが、大学生に対する支援がほとんどない状態である。実際に自宅から通学しているので、長浜から出ずに大学に通っている大学生に対する支援があったらとてもありがたいと思うとともに、大学生に対する支援があれば、市内で就職しようと思えるきっかけにもなると思うので、大学生に対する支援事業に予算を使っていただきたい。

(委員)

- ・ まち・ひと・しごと創生総合戦略で重要業績指標一覧を見たが、これだけ施策をしっかり定量的に評価されていることに驚いた。人口がこれだけ減少しており、地域を維持するだけでも厳しい中で、目標を立てて実績を出して、その施策の内容を評価していかなれると思う。その目標を毎年度なんとなく増やしていかれると、実情と結びつかないこともあるので、その目標の立て方については、いろんな周辺環境条件とか備えた上で慎重に設定して評価していただきたい。

議事終了、会議進行事務局へ

(4) その他

- ・ 第3回審議会の開催日報告
12月26日(金) 9:45～12:00
- ・ 第4回審議会の日程再調整。
令和8年4月24日(金) 13:45～16:00 (日程再調整結果)
- ・ 本会議の要点録を市ホームページに公開する。

(5) 閉 会

以上